

第4回小田川柳井原地区川づくり検討協議会 議事要旨

開催日時：平成31年2月5日（火） 13:30～15:30

場 所：岡山河川事務所 2階会議室

出席委員：7名中7名出席

議事要旨：

議事①みお筋・瀬淵の設定

（萱場委員）：河床変動計算では、20年後と100年後の最深河床高に大きな差異がないことから、将来よりも付け替えた直後に急速な河床低下が生じると考えられる。1回の洪水で大きく変動して河床低下する可能性があるため、付替え後、特に初期の段階で堤外水路の環境が変わらないかモニタリングが必要である。

（萱場委員）：-1.2k～-1.0k 左岸の護岸や本川との背割堤の景観等に配慮が必要である。

（萱場委員）：堤外水路の横断図0.4kを見ると横断方向に河岸侵食しながら、河床低下しているようにもみえるため、竣工してからみお筋と堤外水路の変化を慎重にモニタリングしたほうが良い。

（事務局）：みお筋・背淵について意見をふまえ検討していく。

議事②河道の維持管理

（前野委員長）：低水路と堤外水路は、連動しているという理解で良いか。

（事務局）：低水路の水位変化に対して堤外水路の水位は反応してない。低水路の影響よりは、堤内側からの水の供給のほうが影響が大きいと考えている。

（前野委員長）：低水路の側岸侵食が進むときに水位が変わらないかということも、あわせてモニタリング等で把握する必要がある。

（中田委員）：渇水時の水位について、堤内側からの水の供給がない場合はどうするのか。極端なケースとして、検討しておく必要があると思う。

（事務局）：本当に渇水が生じた場合にどう対処できるか、今後の課題として検討していきたい。

（萱場委員）：ワンドの奥部では、本川水位とワンドの水位の水位差がつくため、横方向に浸透したり、覆没して本川の水が減少したり、そういう現象が起きると考えられる。その部分の平常時の流況を、ワンドも含めてどうなるか予測すると良い。

議事③多様な動植物の生息環境の創出

(萱場委員)： クリークをつくる場合、水面幅が一定となるケースが多いが、現況のクリークは水面幅の変化がある。自然の形状を真似て、今回つくるクリークに活かすことが重要である。

そういう意味でも、提案のステップ&プールは、具体的な形状は、実施設計の段階で工夫すると良い。

(中田委員)： クリーク内の平水時の流況評価の図において、全体的に緩やかなところのエリアが限られている。もう少し、広い範囲で緩流域が好きな魚等が生息できる環境があっても良い。堤外水路について多様な流速ができるように設計して欲しい。

(前野委員長)： 現地を施工するような段階で、委員に確認してもらい、参考となる意見をもらえると良い。

(波田委員)： 今まで、このようなタイプでは、一番始めに図面を描き、工事はその通りにきれいに作ってしまう場合が多い。何かいいかげんにつくって、図面が必要だったら最後にでき上がったもので図面をつくるぐらいの現場合わせみたいな感覚のほうがよい。

議事④アサザの生育環境の保全

(萱場委員)： 取水口とワンドの位置の兼ね合いについて、注意が必要である。

(萱場委員)： アサザ池は、他のいろいろな生物も棲める環境であることが整理されており、この視点は、小田川本川の生物多様性を確保するという意味で、非常に重要な池としての位置づけが明確になると思う。

議事⑤一年生草本の生育適地の整備

(波田委員)： 堤防からの位置関係も考慮してクリークを検討する必要がある。緑化ゾーンを設けることができるように気をつける。

(事務局)： 堤防から 10m 以上の距離は確保することになっている。

議事⑥本川の連続性

(藤井委員)： アユの産卵に適した礫の粒径が大きく変化しないということがわかったので、今後のモニタリングの中で、維持されているか確認する必要がある。

(事務局) : アユの産卵場に着目した調査は今後実施していく。

(内藤委員) : 合流点の新しい床止め設置について、治水上の視点からも検討をお願いします。

(事務局) : 治水上の安全を確保した中で、現在の環境を維持できる様な合流点の工夫を検討していく。

(中田委員) : 河道の付替えにより合流点の位置が変わると、回遊性生物の遡上パターンが変化することもあると思われる。回遊性の生き物の分布に着目しながらモニタリングをしてほしい。また、回遊性の生き物を考えた場合、降河環境の維持・保全も必要であるため、降下状況についてもモニタリングするとよい。

(萱場委員) : クリークの取水が非常に不安定で枯れてしまうことが不安要素であり、モニタリング方法について、CCTV で取水口を見る等、タイムリーに水の状況が確認できる仕組みを取り入れた方がよい。

(前野委員長) : モニタリング結果は、広く発信することが望ましい。

議事⑦河川利用

(萱場委員) : 5割勾配の法面は、すばらしい水辺になるポテンシャルを持っており、実施設計の段階でデザインに長けた人に設計してもらう事を検討してほしい。
また、水辺の形状をどうするかにより、水辺へのアプローチのしやすさ等が変わるため、十分な検討が必要である。

(前野委員長) : 計画のイメージ図を作成した方がよい。

(事務局) : 具体的な案を作成し、地域の方々と協議を進めていきたい。

(萱場委員) : 最後は出来栄えが大事であるため。この先検討を進める上で、最終的な出来栄えをどう確保するかに注意すると良い。また、そのための体制づくりについても考えておくと良い。

(事務局) : 本日の意見を踏まえ、今後詳細な設計にはいっていきが、今後の多自然川づくりにあたって、引き続き助言をお願いしたい。なお、本協議会で議論した内容は、取りまとめのうえ、小田川合流点付替え事業環境影響評価フォローアップ委員会に報告する予定である。

以上